

## 平成 24 年度 校内研究計画

### ① 研究主題

#### 主体的に読もうとする子どもの育成

～言語活動の充実を図る単元づくりを通して～

### ② 主題設定の理由

平成23年度より新しい小学校学習指導要領が施行された。今回の改訂では、PISA 調査や全国学力状況調査などにおける課題を受け、基礎的・基本的な知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力の育成、そして、学習意欲を高めることが求められ、これらを調和的に育むことが必要であると述べられている。このように、課題である思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題を解くことができる力を育成するためには、学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成が重要視されている。

本校では、一昨年度よりすべての教科の基礎となる国語科に焦点を当て、とりわけ「読む力」の向上を目指した研究に取り組んできた。「主体的に読もうとする子どもの育成」をサブテーマに掲げ、意欲的・主体的に取り組む指導法の改善と工夫のあり方について、授業研究を中心に実践研究を積み重ねてきた。また、言葉の力を高める学習を支援する言語環境の整備にも力を入れてきた。学年に応じた主体的に読むために必要な指導を、様々な場面で行ったことで、単元に関連した本を読む児童が増え読書の幅が広がったり、登場人物の心情や描写をとらえながら読むことができたりしている。しかし、児童の語彙力や読み取る力、読む本のジャンルや内容には、大きな個人差がみられた。読みとったことを基に想像豊かに広げて読ませることの指導や「言語活動」の充実が必要である課題が残った。

本年度は、さらに単元を貫く「言語活動」の充実を図る単元づくりを通して、「主体的に読もうとする児童の育成」を目指す。そこで、昨年度設定したグループ学年の「めざす児童像」を見直し、具体的な児童の姿をとらえ直し、研究の方法を探る。そして、全学級の授業研究と研究会を実施し、実践と研究を深めていきたい。さらに、「言語活動」の充実を図るために、各学年に応じた「読むこと」の学習目標と内容を系統的に分析し、それらを生かした単元づくりを考えたい。また、児童の言葉の力を高めるために、家庭と連携し、読書の推進や情報発信を行う。

このような取り組みを行えば、学んだ言葉を実の場で生かすことができ、「若木の子どもの読む力」が高まると考え、本主題を設定した。

### ③ 研究の目標

「読むこと」の指導において

- (ア) 主体的に読もうとする力を育む指導法の工夫と改善
- (イ) 「言語活動」の充実を図るための工夫

### ④ 研究の仮説

「読むこと」の学習において、児童が読み深める必然性を生じさせるような、効果的な単元を貫く言語活動を設定すれば、読もうとする意欲を高めるとともに主体的に読もうとする力を育むことができるであろう。

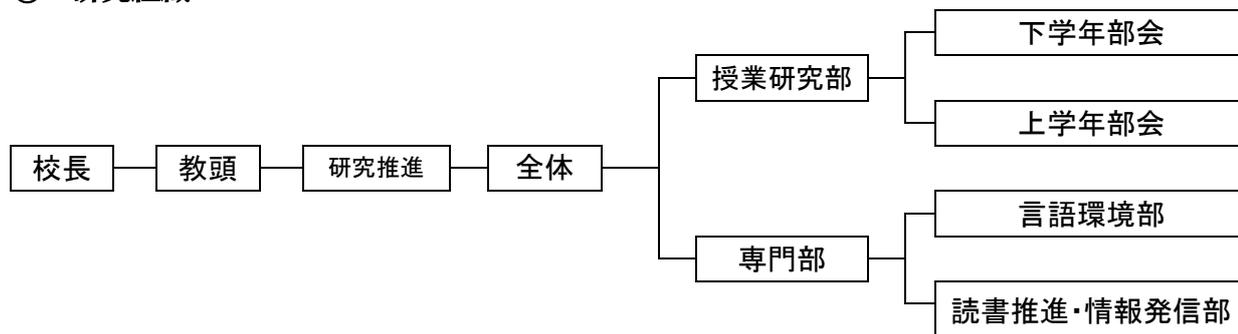
## ⑤ 研究の内容と方法

- (7) 児童の興味・関心・意欲・学力の実態把握  
研究授業前には、必要かつ適切な児童の実態把握をする。
- (f) 意欲的、主体的に取り組む指導法の工夫と改善
- i 年間指導計画の工夫（身につける力、単元、学習内容、活動、評価、めざす児童像など）  
・ 学年、月、単元において系統性をもたせた計画を作成する。（実践校を参考にする。）
  - ii 単元：1 単位時間での指導の目的、内容、方法を明確にした学習展開の工夫  
・ 一人読みの時間の確保と手立てを工夫する。  
・ 授業が活性化する音読を重視し、学校生活の中で音読・群読・朗読等ができる時間を確保していく。  
・ 活動の目的・内容、方法に応じた教材・教具を開発し、指導を工夫する。  
・ ワークシートの活用、学習ノートの工夫
  - iii 発問の工夫  
・ 児童の多様な発言を促し、主体的に読もうとする子どもを育てるための発問等の工夫をする。
  - iv ICT の効果的な利活用
  - v 学習用語の指導
- (g) 言葉の力を高める学習を支援する言語環境の整備
- i 言語環境の整備  
・ 話型や言葉の約束などを掲示し、日々の学習に目標を持ち、意識して取り組む。  
・ 授業の様子やワークシートを掲示し、学習の足跡を確認させる。  
・ 日常的な国語辞典の活用（2 年生以上）
  - ii 学習を支える日常指導  
・ スキル学習や繰り返し学習を日常的に行い、言語活動を活性化させる。  
・ 授業と連動した読書の推進（読書回覧（家読）、武雄市「おすすめの本」の活用）
- (h) 評価の工夫・改善
- i 評価活動（教師による子どもへの評価、子ども同士の相互評価、子ども自身による自己評価）を授業の中で実施することで、児童の「個の読み」の良さを把握する。

## ⑥ 具体的な取り組み

- (7) 研究の視点に基づいた研究授業を実施する。（6～12月）  
・ 全体授業研究会を上・下学年より1回ずつ行う。他の学年はグループ授業研究会を行う。
- (f) 授業研究部会、専門部会をおき部会別研究を行う。
- (g) 「校内研究のまとめ」として冊子を作成する。（2月予定）
- (h) スキルタイムを毎週木曜朝の時間に設定し、児童の語彙力・記述力・視写力などを高めるためのスキルに取り組ませる。  
（第1週：言葉・視写、第2週：音読、第3週：長文読解、第4週：市漢字検定）

## ⑦ 研究組織



研究会		主な活動内容	担当
全体会		<ul style="list-style-type: none"> <li>指導案説明会（全体研事前）</li> <li>授業研究会</li> <li>研究推進委員会を受け研究内容についての検討</li> <li>先進校視察の報告会</li> </ul>	全職員
授業研究部	下学年部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>部会での研究内容の設定</li> <li>本校の年間計画表（学習用語含）の作成</li> <li>研究授業指導案の作成と資料の保管</li> </ul>	
	上学年部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>検証授業</li> <li>研究会の司会・記録</li> <li>授業の成果と課題</li> </ul>	
専	言語環境部	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語や言葉に興味をもつ環境整備（今月の詩の選定と全校での音読会ことわざ等）</li> <li>取り組みの成果と課題</li> </ul>	
	読書推進情報発信部	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上のための情報発信</li> <li>家庭への啓発（校内研便り、読書回覧，読書，生活リズムチェック，辞書の利用など）</li> <li>取り組みの成果と課題</li> </ul>	

## ⑧ 年間計画

4月	5月	6月	7月	夏期休業	9月
第1回研推 第1回全体会 第1回部会	第2回全体会 講師招聘研修	G 授業研 事前研	* 全体研	部会 年間計画表作成	G 授業研
10月	11月	12月	1月	2月	3月
G 授業研 事前研	*全体研	G 授業研	研究のまとめ	「研究のまとめ」の印刷・製本	次年度研究について

